

『高齢者のドライマウス 口腔乾燥症・口腔ケアの基礎知識』

阪井丘芳 著

ドライマウスという言葉を知って、皆様はどのような印象をお持ちでしょうか。「口の中が渇く病気でしょ」「自分には関係ない病気だな」程度に考えておられる方も多いのではないのでしょうか。なぜなら私も医師として駆け出しの頃は、そのように思っていたからです。普段の臨床においても「口」をそれほど意識することはなく、空気や食物の入り口であり、その病気は歯科や口腔外科等の一部の専門家の先生にお任せすればいいという感覚でした。今考えれば恥ずかしい限りです。しかし、長年の臨床経験とともに、今では口の重要さを痛感しております。

私の専門領域の呼吸器疾患でドライマウスとかわかりが深い病気は、本書の著者も column で述べられている肺炎です。肺炎は日本人の死亡原因の第3位で、その多くは高齢者における誤嚥性肺炎です。口が渇くと菌が増えやすくなり、誤嚥性肺炎を発症するリスクが高まります。そのため、口のケアは誤嚥性肺炎の予防には欠かせません。また口の病気が原因で他の臓器に悪影響が出ることをよく経験します。西洋医学では、身体を個々のパーツで診ることが多いですが、東洋医学のように病気を身体全体の不調和ととらえていくことも大切です。特に高齢になればなるほどそれが顕著です。古くから「お口の病気は万病の元」と言われておりますが、まさにそのとおりです。

私が最も本書の著者である阪井丘芳先生に共感を覚えるのは、今の日本医療に対して危機感を感じ、予防医学の大切さ、そして多くの日本人が忘れかけている自分の健康維持のための日々の努力の大切さを訴えている点です。病気になっ



B5判, 60頁
1,900円+税
刊行: 2017年6月
医歯薬出版株式会社

てから治していたのでは遅く、ならないように努力する姿勢が大切です。口の衰えは高齢化とともに誰もが経験する道であり、健康寿命を延ばすためにすべての国民が向き合わなければならないのだと思います。そういった著者の熱い思いは随所に感じられます。

本書は、ドライマウスに対しての知識から対応策まですべて網羅され、またイラスト等を使いわかりやすく解説された本となっています。ドライマウスは潜在患者が多く、年を取れば誰もが向き合わなければならない病気です。是非、普段かかわる患者さんだけでなく、親戚・家族・友達を含めた身近な方にも薦めてほしい一冊です。この本を読んでいただき、ドライマウスという病気に対して、一人でも多くの方々に関心をもっていただきたいと感じています。まず知ることから始めてみませんか？

辻文生

(市立吹田市民病院
呼吸器アレルギー内科)